

枕崎市 地域学校協働活動だより

令和2年11月号

発行
枕崎市教育委員会
生涯学習課
枕崎市中央町184番地
TEL0993-72-0170

「地域学校協働活動だより」は、年に3回、お知らせ版とじ込みで市内全世帯に回覧しますが、毎月「号外」を作成して全小中学校などに配布して、そのときどきの活動をお知らせすることにしています。

今回は、10月に行われた学校応援団ボランティアなどについて紹介したいと思います。

～老人クラブと12種類の「昔の遊び」～ 立神小学校

立神小学校では、小学校1～2年生と地域の老人クラブの方々が「水てっぽう」や「けんけん遊び」など12種類の「昔の遊び」体験で交流活動を行いました。

子供たちは、体育館や校庭を回りながら、難しい「こま回し」に挑戦したり、「目玉遊び」を楽しんだりして、12種類全部の遊びを体験しました。

立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、毎年老人クラブの方々も子供たちと遊ぶのを楽しみにしています。

老人クラブで作った「どんぐり回し」や「竹トンボ」などを持ち込んで、子供たちに教えながら、一緒に「昔の遊び」を楽しんでいました。



～ミシンを使ってバッグとエプロン製作～ 枕崎小学校

枕崎小学校では5年生と6年生の家庭科でミシンの授業がありました。各学年2クラスそれぞれ2時間を2回ずつ、合計8回の授業で、「たけのこ」と「家庭倫理の会」の方々がミシンの使い方の指導を行いました。

5年生がエプロン、6年生がナップザック又はトートバッグの作成でしたが、ボランティアの方々に教えてもらいながら、ミシンを使って上手に仕上げていました。

5年生は初めてのミシン操作という児童も多でしたが、エプロンにひもを通す部分を上手に縫っていました。

6年生のナップザックは難しい部分もありましたが、2回の授業で全員が仕上げることができました。

子供たちは自分で作ったエプロンやナップザックを身に付けて、得意げにお互い見せ合っていました。



～「大塚の花づくり」をわかりやすく授業～ 立神小学校



が講師となって話をしました。

この「郷土の開発」の授業は、立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、地域の子供たちに地元の産業について知ってほしいということで、毎年行われているものです。

大塚の花づくりは「電照菊」で有名ですが、「なぜ菊に電気の光を当てるのか」「輪菊（りんぎく）とスプレー菊の違い」などを説明し、菊を育てて出荷するまでの苦労などについての話がありました。

子供たちは「輪菊にするために、花の芽を摘む苦労があることを初めて知った。」などと感想を述べて、大塚さんが育てた菊の花の香りを楽しんでいました。

～「昔の暮らし」で高齢者にインタビュー～ 別府小学校

別府小学校では、3年生の「人々の暮らしのうつりかわり」の授業で、子供たちが地域の老人クラブの方々に昔の暮らしの様子についてインタビューを行いました。

クラスを3つの班に分けて、それぞれ2名の高齢者の方に入ってもらい、昔のまちや学校の様子、生活の仕方などについて聞きました。

「昔は別府小学校に800人以上の児童がいた」「昔のお墓は土葬で、ひとり一人に墓があった」などの話を聞くと、現在との違いに驚きながら、今と昔の違いについて班でまとめていました。



～「郷土の民話」の読み聞かせ～ 立神小学校



立神小学校では「民話の伝承」の読書活動で、枕崎市立図書館の職員の方に来ていただいて、10月7日に4～6年生、10月16日に

1～3年生に、郷土の民話の読み聞かせを行いました。

「民話の伝承」は、立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、地域の子供たちに地元の民話を語り継いでほしいということで、毎年行われているものです。

読み聞かせを行った民話は「枕崎と呼ばれるようになったわけ」という市立図書館が製作した絵本で、枕崎市誌などに掲載されている伝説や民話を元に、枕崎の地名の由来を子供にも分かりやすく作られています。

体育館でプロジェクターに絵を映し出して「流れてきたのは、小さな引き出しのついた箱枕でした…」と、民話の読み聞かせを行うと子供たちは興味津々に聞き入っていました。